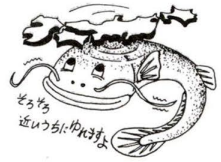


区のお知らせ

足立区

足立区千住一丁目50
☎(882) 1111
編集・発行/足立区役所



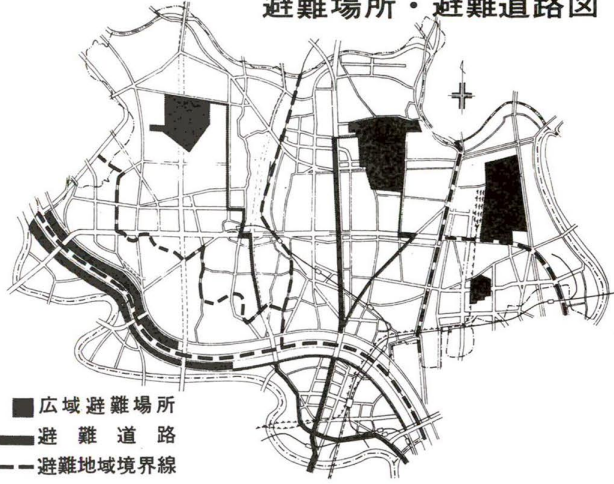
避難道路が指定されています

避難コースの確認を

東京都震災対策本部(本部長・美濃部知事)では、広域避難場所指定に
続いて、去る四月二十五日、避難道路を指定しました。この避難道路は、
大地震発生の際に予想される避難途中の混乱・危険の発生を防止し、住
民を安全に避難場所まで導くために定められたものです。

都は大震災の発生に備えて、昭和四十七年、都内全域に百二十一カ所の広域避難場所を指定しました。今回の避難道路は、広域避難場所までの距離が長いもの、②火災による延焼火災の危険性が高く、避難の困難が考えられるもの、三十七カ所について、五十六系統三百七十七を指定したものです。

避難場所・避難道路図



■広域避難場所
—避難道路
--避難地域境界線

避難場所にあてられたのは、原則として幅十五メートル以上、他の避難道路と交差していない道路で、震災時には、車の進入を規制し、人の流れを一方通行にします。
そして、避難行動の安全をはかるため、他の道路に優先して拡幅を進める一方、避難道路上にある歩道橋や橋の補強・架け替え、周囲の不燃化、沿道危険物の除去、消防力の重点配備等々、各種の安全対策を構じています。

くことになっていきます。
足立区においては、左図のように
舎人付近・花畑町付近・荒川河川敷
D南岸の各避難場所へ向かうための
避難道路が指定されました。関係地
域にお住まいの皆さんは、自分の避
難路を確認しておき、いざという
きに備えて下さい。

大震災が発生した場合に、避難道
路周辺の配備さ
れている小型動
力ポンプを操作
し、地下貯水槽
の水を用いて、
火災から避難道
路を守るため、
活躍するのが市
民消防隊です。
この市民消防
隊は、地下貯水
槽・小型動力ポ
ンプが設置されて
いる地域の地元町



(写真は市民消防隊の訓練風景)

三角バケツを無料配布 初期消火に活用を...

足立区では、二か年計画で、二
人以上の世帯すべてに、三角バケ
ツをひとつずつ、無料配布するこ
とになりました。まずは家屋の密
集している市街地から、というこ
とで、今年度は常東、第三、四、
五、六、七、八、十、十二、二十
の各出張所管内に、残りの地域に
は来年度上半期に配布します。
「アツ、地震、あわてずさわが
ず、まず火の始末、」を消して「こ
れらは、昨年度が募集した防災標
語の入選作です。大地震が起きた



とき、まず第一に火の始末をし、火
事を出さないようにすることが、
悲惨な震災を繰り返さないために最
も必要なことなのです。三角バケツ
を、万一の
き初期消火
に活用してい
ただきたいと
思います。
また、地震
時の飲料水確
保といった面にも役立てて下さい。
東京消防庁消防科学研究所が開発
ら、スペースをとらずに置く
という利点を備えています。

市民消防隊が発足

大震災が発生した場合に、避難道
路周辺の配備さ
れている小型動
力ポンプを操作
し、地下貯水槽
の水を用いて、
火災から避難道
路を守るため、
活躍するのが市
民消防隊です。
この市民消防
隊は、地下貯水
槽・小型動力ポ
ンプが設置されて
いる地域の地元町

防災訓練に 参加しましょう!

「備えあれば憂いなし」い
つか、大地震に襲われたとき
私達はこのことを実感をもっ
て受けとめることでしょうか。
だんからの心がけと訓練の積み
重ねこそが、再び大震災が
発生することを防ぐ、最も有効な
手段なのです。そこで、区は、関
東大震災のあった九月に、二
つの訓練を行います。皆さんの
ご協力を願います。
(写真は去年の訓練風景)

■わが家の防災訓練

日時 九月一日(日) 午前
十一時五十分(関東
大震災発生の時刻)
場所 大震災発生時刻
訓練開始の合図にサイレンを
鳴らします。
各家庭では次
の要領で自主訓
練を行なって下
さい。
●(訓練内容)
○ 使用中の火
気を手早く
消す。
○ バッテリーを
使った身や
かきつけて様子
をみる。(自分の家ではど
ろが安全か、あらかじめ話し合
っておく)
○ ガスの元栓を締め、電気器
具のコードの差し込みをぬく
など、火の元の一斉点検をす
る。
● 足立区総合防災訓練
日時 九月四日(水)
道山運動が激しい地帯では、
地球内部にある地殻に何
らかの原因で圧力が加わ
る程度のみずみまは
耐えませんが、耐え切れな
くなった時に地殻が変形
し、岩石が壊れます。
この時生じる衝撃が地震
だとわかっていきます。
地震の原因については、マ
シトル熱対流説が最近注目を
集めています。マントル部
分では、下層ほど温度が高
いため、岩石が一年間にお
ずか「グズグズ」というゆ
りした速度で、風呂のお
湯のような対流を起してい
ます。地殻はマントル
ルの動きに引きずられてい
き、そのために地殻のひず
みが生じるというものです。

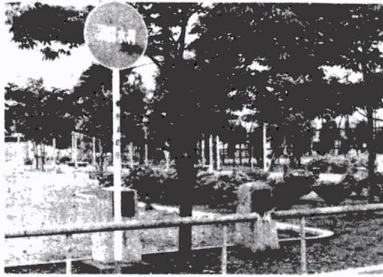


初期消火訓練 会場では、訓練
参加の皆さんに
上、初期消
火訓練を消防署
・消防団の指導
によって行な
います。
避難訓練 対象地
域の皆さんの避難
誘導は警察官が行
なします。その際
は警察官の指示に
従い、事故のない
よう十分注意下さい。
なお、対象地域の方も、ご
近所の皆さんも誘いあわせのう
え、多数ご見送ってくださいよう
願います。

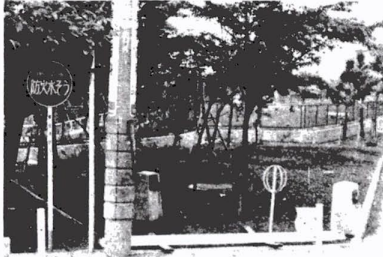
地震とは

シトル熱対流説が最近注目を
集めています。マントル部
分では、下層ほど温度が高
いため、岩石が一年間にお
ずか「グズグズ」というゆ
りした速度で、風呂のお
湯のような対流を起してい
ます。地殻はマントル
ルの動きに引きずられてい
き、そのために地殻のひず
みが生じるというものです。

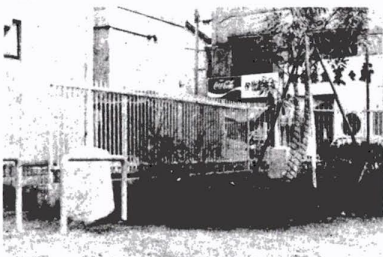
1 南椿公園 (椿1-5-1)



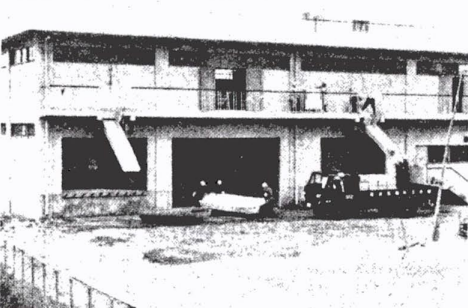
2 尾竹橋公園 (千住桜木2-16)



3 千住中居町公園 (千住中居町11-7)



4 中央本町備蓄倉庫



中央本町倉庫備蓄物品一覧表

乾パン	毛布	洋布団	肌着
16,256食	6,551枚	2,000枚	9,827枚
ビニールゴザ	畳ゴザ	クリスタルランプ	ローボート
456枚	4,040枚	86個	5隻
モーターボート	避難所用戸棚		
1隻	29個		

区の災害対策施設

— 備蓄倉庫 —

災害備蓄倉庫には、震災・風水害に備えて、避難民のための食料や生活必需品などが保管されています。現在は2か所しか完成していませんが、昭和60年度までには区内16か所に設置する予定です。

— 防災用貯水槽 —

大地震がおきたとき、すぐさま必要とされるのが水です。飲料水として、消火用として、水の確保は重大な問題です。区は、大地震によって水道配管が破壊されてしまったときに備え、防災用貯水槽(40トン)の設置を進めております。また、水を浄化し、飲料水に適するようにするための濾水機も設けていきます。

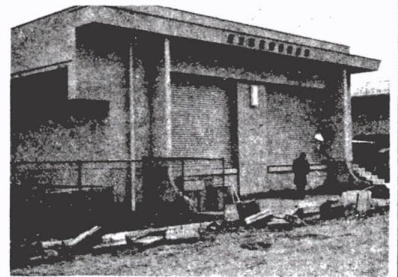


5 西新井西公園

(西新井 6-9-1)



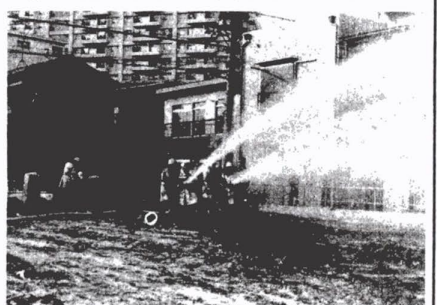
6 花畑備蓄倉庫



花畑倉庫備蓄物品一覧表

乾パン	粉ミルク	哺乳ビン	ポリタンク
25,000食	300缶	600本	100ヶ
プラスチックコップ	救急袋	担架	毛布
600組	50袋	50台	2,600枚
ビニールゴザ	トイレットペーパー	タオル	石けん
1,000枚	1,000ロール	1,000枚	100ヶ
発電機	投光機	トランジスタメガホン	リヤカー
8台	16台	30台	4台
テント	さらし	残留塩素測定機	
10張	85反	2台	

7 青井1丁目児童公園



関東大震災の思い出

本木町五丁目 篠塚行吉(65歳)

私の生まれた所は東京市本所区中ノ郷業平、現在の墨田区、横川橋の角です。震災による被害が、東京で二番目にひどい所でした。

その目には、太平町の郵便局に行つて用を足し、外へ出た時、ゴトと音がして地面がゆれはじめ、立っていられないので道路の真中に座わり込んでしまいました。目の前で、二階家と二階家がぶつかりあつてつぶれてしまいました。つぶれた家の中から助けを呼んでいるのですが、足元がふらついてどうすることもできません。本当に此世の地獄でした。

早く家へ帰ろうと、つぶれた家へ乗り越え、やつと家から三丁ほど手前の太平小学校にたどり着きました。学校の広場は人と荷物でいっぱいでした。そのうち方々から火の手が上がつたので、早く家へ行こうと裏門まで行つたら、荷物を待つて来る人々で門がふさがれ、出られず、扉を乗り越えて、やつとの思いで家にとり着きました。

家はつぶれずに、少し表の方に傾いていました。家の中に誰もいないので、きつと裏の真盛寺に避難したのであると思う、家にあつた一升ビンをお寺の本堂が焼けるすまじさ、火によりタツ巻が起り、トタインや荷物を巻きあげ、呼吸も苦しくなり、持つて来た手ぬぐいで口をふさいだら、苦しくとも呼吸できるよ

お寺の本堂が焼けるすまじさ、火によりタツ巻が起り、トタインや荷物を巻きあげ、呼吸も苦しくなり、持つて来た手ぬぐいで口をふさいだら、苦しくとも呼吸できるよ

「区のお知らせ」五月二十日号で「関東大震災体験記」を募集したところ、六十点を越える原稿をはじめ、記録書、写真、大震災地域図などが寄せられました。

貴重な体験を綴った「関東大震災体験談」や地図・写真、どれも関東大震災を生々しく伝えているものばかりです。

皆様のご協力に感謝するとともに、「関東大震災体験談」を通して述べられているご教訓・ご意見を、いつ起こるか予測できない大地震に対する防災対策の中に生かしていきたいと思っております。

◎応募作品の中から一点をご紹介します。

ンに水を入れ、手ぬぐいを二本持ちました。外へ出たら、近所のゴム会社から火の手上がり、またたく間に広がって、熱くて、やつとの思いでお寺にたどり着きました。

風も出て、八方に火も広がり、もうお寺から出ることもできず、二百坪ほどある池のそばに行つて、身の危険があれば池の中に入る覚悟をしていました。

火がお寺に移り、熱くてどうどう池の中に入つてしまい、頭を水をかけてなんとか熱さをしのいでいました。

そのうち大きな声で「だれかいるか、しつかりしろ」との励まし声で、よく見ると、川の兵隊さん達で、「これでやつと助かった」と思ったとたん、体中から力がぬけて、歩くこともできず、兵隊さんに負ぶってもらい、亀戸の小学校に収容されました。そして、五日目に父母とも会えました。

私は明治四十二年三月生まれ、地震のときはちょうど十五歳でした。今年ちょうど六十五歳になりますが、地震のことを考えるとよく助かったと思ひ、それから先、一日一日を大切にしたいと心がけています。一升ビンの水、二本の手ぬぐいは本場に役にたちました。